

熊野古道紀伊路 PR パンフレット制作業務に関する質問と回答

No,	質 問	回 答
1	「パンフレットの仕様」に「英訳を併記」とあるが、英語は、日本語と同じ言葉を英訳するのか、英語圏の方が理解しやすいような元原稿を用意して、英訳するのか、どちらを想定していますでしょうか？ 例えば「熊野古道・紀伊路の起源は、古代における自然崇拜と、平安時代に始まった皇族・貴族による「熊野御幸（くまのごこう）」に由来します」の文章を英訳するとして、そのまま英語にするのか、噛み砕いた説明やまったく違う元文を作って英訳するのか、どういう併記を想定しているのかを教えてください。 日本の常識（日本人は「和歌山県」がどこにあるか分かるが、外国人は和歌山県の位置から説明しなくてはならない）、熊野古道についての知識（日本人でも知らない人が多い）をどう英訳するのかによって、英訳の手間・コストが異なり、2言語の文字量もまったく異なってしまうため、県の意向を確認したいです。	英訳については、英語圏の方々が理解しやすい表現としてください。 詳細に説明したほうが読み手の理解に繋がりますが、紙面のスペースや写真とのバランス等、総合的に判断して説明量を決めてください。 なお、例で挙げられた文面であれば、例えば「平安時代」に「(西暦****年ごろ)」と追記、また「皇族・貴族による『熊野御幸』」に「皇族・貴族による<u>巡礼</u>『熊野御幸』」と追記することで、原文・英訳ともに理解しやすくなると考えています。 なお、パンフレットの配布は県内の観光拠点等を予定しており、和歌山県の位置を説明する必要はないと判断しています。
pp2	「ターゲット」については、(仕様書)①②の例示がありました。①②のターゲットに向けた内容で制作したとして、印刷物であるパンフレットを、県としては①②に当たる方々をターゲットに配布できる手法をお持ちなのでしょうか？あるいは上記ターゲットに向けた配布方法も提案しなくてはならないのでしょうか？ 「日常的に登山・ハイキングを行うような方に向けた内容」ということは「登山の常識的な情報は、初歩から記載しなくてもよい」ということでしょうか？外国人は、「自国で登山・ハイキング・巡礼道歩きの経験を持っている方」という経験レベルを前提に記載してもよい、ということでしょうか？富士登山の啓発記事のような「登山初心者」に向けた記載、は想定していないと考えてよいのでしょうか？(このような情報を説明するページが必要になると、ほかの要素の指定もあり20ページでは足りないのですが、ページ内の配分を吟味しなくてはなりません)	配布方法については、本県で検討しているため、提案の必要はありません。 今回、歩き旅の視点で紀伊路を紹介することを想定していますが、登山やハイキング、巡礼道歩きに関する初心者向けの説明は必須ではありません。また、外国の方々に対しても同様です。 登山やハイキング、巡礼道歩きをしている方々へ訴求できる内容としてください。 (参考 仕様書に記載したターゲット) ① 日常的に登山やハイキングを行うなど、山歩きや歩き旅に関心がある方々 ② 熊野古道中辺路を既に踏破しているなど、長い距離を歩くことができ、ロングトレイルや巡礼ウォークに関心がある方々

熊野古道紀伊路 PR パンフレット制作業務に関する質問と回答

No,	質 問	回 答
3	「エリア内市町の関係文化財等の紹介」の項目で、関連市町が 11 あって、1 ページで記載することと、「すべての王子と関連するお寺等の紹介」を載せる、とありますが、すべての王子やお寺を写真付きで紹介する必要があるのでしょうか？ その写真素材は、県から提供されると考えたらいいでしょうか？ あるいは、すべて撮り下ろしで取材すること想定しているのでしょうか？	全ての王子や関係するお寺等に、写真や説明文を付ける必要はありません。 なお、本県から写真素材の提供はありません。
4	和歌山県には、既存の「歩くためのパンフレット」として、「和歌山県街道マップ」の「紀伊路」（ほか、中辺路、大辺路などの地図）があり、ウェブサイト上では PDF の公開もしていると思いますが（https://www.wakayama-kanko.or.jp/courses/detail_55.html#2161）、今回作るパンフレットとの棲み分けはどう考えたらいいでしょうか？	「和歌山県街道マップ」は歩き旅用の実用的な地図と位置付けています。 今回作成するパンフレットは、紀伊路の認知度向上及び来訪者の増加を目的とした PR 用と位置付けており、中辺路を歩いた方々や歩き旅に興味がある人に対して訴求できる内容を想定しています。
5	タイトルおよび表紙デザインについて、複数案を提案することは可能でしょうか。	企画提案書（A 4 判、左綴じ、オールカラー、10 ページ以内）の範囲内であれば問題ありません。
6	県内 13 か所への納品について、各納品先へのおおよその納品部数をご教示ください。	現時点で、以下のとおり想定しています。 ・観光振興課 4,000 部 ・関連振興局（海草 900 部、有田 900 部、日高 900 部、西牟婁 300 部） ・世界遺産センター（その他、観光関連施設）11,000 部 * 納品場所、数量は変更となる場合があります。
7	本業務での取材・撮影先選定にあたり、紀伊路や地域の歴史、歩行者との関わりについてお話しただけの地域住民・事業者等について、県または関係市町から候補をご紹介いただくことは可能でしょうか。	可能です。
8	パンフレット制作にあたり、県または関係市町から支給予定の写真素材・地図・ルート データ等がございましたら内容および範囲をご教示ください。	支給を予定しているデータはありません。 和歌山県街道マップ（https://www.wakayama-kanko.or.jp/courses/detail_55.html#2161）や、和歌山県公式観光サイト（https://www.wakayama-kanko.or.jp/）などをご活用ください。